

九州大学所蔵『延五秘抄』一本について(三)

崎村, 弘文
鹿児島大学講師

<https://doi.org/10.15017/10520>

出版情報 : 文献探究. 8, pp.26-38, 1981-06-07. 文献探究の会
バージョン :
権利関係 :

九州大学所蔵『延五秘抄』一本について (三)

崎村弘文

本稿は、「文献探究」3・5・6所載の拙稿に続いて、九州大学文学部所蔵の『延五秘抄』一本(完本)を取り上げ、その国語史資料としての性格を明らかにせんとするものである。

同本は、右記拙稿に指摘しておいた如く、『古今和歌集』の注釈書として多くのへ詠みの注記Vを持ち、中世末から近世初期にかけての国語史上の動向リオ段長音の開合の混乱、いわゆる四つ仮名の区別の混乱・iu連母音の拗長音化・濁点・不濁点の発達、等々リを、かなりまとまったかたちで表記の上、に反映するものであり、へ決して豊富とは云いがたいVこの時期の国内国語音韻資料を補なう上で、大きな価値を持つと思われるものである。

それらへ詠みの注記Vについての検討・考察はすべて前稿に示しておいたので、ここでは、それと比較する意味で、本文部分の表記につき前回と同様の検討を行ない、一連の拙稿のしめくりとしたい考えである。

検討・考察の順序は、次の通りである。

(1) 開合の表記について

- (2) 拗長音・iu連母音の表記について
- (3) 合拗音の表記について
- (4) ハ行転呼音の表記について
- (5) 語頭の [j] [je] [wo] の表記について
- (6) 四つ仮名の表記について
- (7) その他

(1) 開合の表記について

a、上冊

・開音表記

あふミふり(近江曲) 2(2)* まちかう(桔梗) 1(1)

さうくはん(少目) 1(1) さうひ(蕎麦) 1(1) たふ

とく(尊) エ りんたう(竜胆) 1 ちかう(近) 1(1)

つかうまつる(仕) 1 やう(様・薄) 1 大し・此 1(1)

のし 35(2)

・合音(ou系)の表記

けきやうする…(食供) 1

・合音(eu系)の表記

けふ(今日) 2(1) てふ(蝶) 1 …てふ(云) 1 ハせを

は(芭蕉葉) 1(1) きやくくん(教訓) 1

b. 中冊

。開音の表記

かう(此) 1 かうハシ(春細し) 1 ひつきやう(畢竟) 1

つかうまつる(仕) 1 まうく(設) 4 まうちきみ(臣)

3(2) まうつ(詣) 1(1) ミやう州(明) 1 やう(様)

大、此、然、...の、34 やうかまし(様) 1 やう

く(漸々) 10 もうて(詣) 1

。合音(ou系)の表記

をうな(嫗) 1(1)

。合音(eu系)の表記

せうえう(逍遙) 2 セうし(笑止) 1 ...てふ(云) 3(2)

しやうすれ(為) 1

c. 下冊

。開音の表記

かうふる(蒙) 1 きかう(閑) 1 ひつきやう(畢竟) 1

たうとひ(尊) 1 いたう(甚) 1 のたうひ(宣) 2(1)

りんたう(竜胆) 1 はう官(判) 3(2) まうちきみ(臣)

(3(2) まうつ(詣) 1(1) やう(様、如何、大)

此、然、...の、49 やうく(漸々) 3 下らう(

薦) 1 わうこ(杓) 1 いたう(甚) 1 ひほう(誹謗) 1

。合音(ou系)の表記

いもうと 1 をとうと 1(1) ついせう(追従) 1

。合音(eu系)の表記

一えう(葉) 1 せうそこ(消息) 3 ...てふ(云) 11(8)

※具体例の示し方は、「例・例数・全例数中に含まれる項・文中例の数の如くする(用言の例を示す場合は、適宜、変化形の一つを採って示す)。例中、Xを付したものは、本来の表記形から外れるものである。なお、項出文(『延五秘抄』が引用・項出している『古今和歌集』本文)中例の数を別に示したのは、伝受の対象として特に注意が払われたはずの項出文の表記と、他の部分の表記との間に、何らかの異なる傾向が見出たされはしないかと考えてのことである(これについては後述する)。以下同様。

以上の調査結果をのべ例数によって整理すると次のようになる。

冊		冊		冊	
59		45		1	
開音表記		開音表記		合音(ou系)表記	
eu 表記 0	ou 表記 1	eu 表記 0	ou 表記 0	eu 表記 0	ou 表記 1
au 表記 58(3)		au 表記 45(8)		au 表記 0	
1		1		6	
合音(eu系)表記		合音(eu系)表記		合音(eu系)表記	
eu 表記 0	ou 表記 1(1)	eu 表記 0	ou 表記 0	eu 表記 5(2)	ou 表記 0
au 表記 0		au 表記 1		au 表記 1	
9		9		9	
eu 表記 8(2)		ou 表記 0		ou 表記 0	

冊	71	3	14
au 表記	69 (5)	0	0
ou 表記	2	2 (1)	0
eu 表記	0	1	14 (8)

計	175	5	29
au 表記	172 (16)	1	2
ou 表記	3	3 (2)	0
eu 表記	0	1	27 (12)

開音表記・合音表記ともわずかに混乱が見られるもの、全般にかなり正確な書き分けを行なっていると認めて良いようである。特に、項出文中の例については、(例数の多少による)ところも有るかと思われ(全く混乱が認められず、注意を要する)。

ちなみに、前回の傍訓注記についての調査では、漢語の表記に

422	173	79
eu 表記 26 (6.2%)	eu 表記 30 (17.3%)	eu 表記 48 (60.8%)
ou 表記 10 (2.4%)	ou 表記 107 (61.8%)	ou 表記 4 (5.1%)
au 表記 386 (91.5%)	au 表記 36 (20.8%)	au 表記 27 (34.2%)

の如き混乱が見られ、一方、和語の表記については、例数の少なさも有って明確な傾向を見出すことができなかった。

今回の調査結果とそれとを比較した場合、一応、

① 両者間には、混乱の度合いをめぐってかなりの差違が認められ、

② 後者の方が前者よりも混乱の進んだ様相を呈している。お、他の事項についての調査結果を参照する必要がありそうである。

(2) 拗長音・iu 連母音の表記について

a. 上冊

・拗長音表記

ゆふ(結) 1 (1)

・iu 連母音表記

リうたん(竜胆) 1

b. 中冊

・拗長音表記

ゆふ(夕) 2 (1)

・iu 連母音表記

いう(優) 7 めいしう(明州) 1

c. 下冊

・拗長音表記

ゆふ(夕) 9 (3) ゆふ(結) 2 ゆふ(木綿) 1

・iu 連母音表記

いう(優) 7 リうたん(竜胆) 1 あさちふ(浅茅生) 1

1) いとゆふ(系遊) 1

※このほか、「いふ(云)」の例などもこの問題に関わるものであるが、煩雑さを避けるため省略した(例数は甚だ多いが、上中下冊を通じて「いふ」の形に統一されている)。

これを整理して示せば次のようになる。

拗長音表記		iu 連母音表記	
juu 表記 15 (5)		juu 表記 1	
iu 表記 0		iu 表記 18 (1)	

一見、正確な書き分けの存する如くであるが、例数の少ない中、混乱の見られること(iu 連母音の juu 表記)は注意を要する。殊に、右の集計は、内実、拗長音表記「ゆふ」の例のみ、iu 連母音の表記「いう(優)」の例がほとんどといった具合なのであるから、軽々に判断することはできない。ここは、むしろ、傍訓注記の表記の実態

56		86	
juu 表記 5	iu 表記 51	juu 表記 35	iu 表記 51

と、さほど差のないものと見ておくのが妥当ではないかと思われる。

(3) 合拗音の表記について

合拗音の表記例は、上冊に3例認められるのみである。

即ち、

さつくわん(少目) 2 さうくはん(少目) 1 (1)

傍訓注記の場合、表記例 88 例中、「クワー」表記 4 例、「クハ

」表記 84 例といった状態であったから、ここで2例の「くわ」表記例が見られるのは興味深い(ただし、全体の例数が少ないので、表記の傾向その他を云々することはできない)。

(4) 八行転呼音の表記について

a. 上冊

- あハ(会・合) 3 あハた(粟田) 2 あはれ 9 あらハ
- 1 (現) 18 いたつかハし 1 いつはり 4 (1) いは(云) 12
- いはひ(祝) 1 (1) 行ハる 1 をとは(音羽) 1 おハしまし
- 1 をハリ(終) 1 思ハ 7 かたハラ(傍) 1 かたらハ
- 2 かなハ(叶) 3 かハ(川) 1 かハす(交) 1 かはたけ
- 河竹) 3 (1) かはらけ 1 かハる(代・変) 4 くハし(細)
- 3 ことほり(理) 4 したハし(慕) 1 しはつム 2 (2) す
- なハち 3 たかハ(違) 2 給ハ 4 (1) つたハる 2 (
- 1) なには(難波) 4 (3) ならハせ(習) 1 / 給ハク(宣)
- 2 ハらハん(私) 1 まとハす(惑) 1 みぎなハし 1 (1)
- ヤシナハ(養) 2 ヤハラ(和) 6 中はまし(結) 1
- あひ(相) 2 あひた(間) 1 あぶひ(葵) 2 (2) あら
- ひ(洗) 1 いひ(云) 12 (3) いはひ(祝) 1 (1) ウカヒ

うくひす(鷺)2(1) うしなひ2 うたかひ2 うたひ(歌)
 (4) うつろひ1 をひ(生)1 をひ(追)1 おほひ1(1)
 思ひ2 かたらひ3 かひ(甲斐)4(2) かひ(効)2 かよひ
 (通)2(1) さかひ(境)1 さふらひ2(1) したかひ3
 したひ(慕)2 すかひ(次)1 たかひ(互)2(1) たかひ
 (違)1 たくひ(類)3 たとひ(例)1(1) つかひ(使)1
 ならひ(習)8 にほひ2 ねかひ2 はからひ3 まひ(舞)
 (1) 1) むかひ2 やすらひ1 ゆひ(結)1 よそひ(装)
 2 ヨビ(宵)1 たましぬ2 づるに(終)3 たいらけ(平)
 (2) ちいさく1
 あふ(会・合)1 あふさか山1(1) あふき(仰)2(1)
 あふひ(羨)2(2) あふみふり(近江曲)2(2) あらそふ1
 いとふ1 祝ふ2 いふ(云)92(2) うたふ(歌)4 うつろ
 ふ2 うやまふ2 行ふ1 おとろふる1 思ふ18 かなふ1
 叶)4 かふ(飼)2(1) かまふる(構)1 かよふ1 さら
 ふ3 けふ(今日)3 こたふる(答)1 こふる(恋)3 した
 かふ5 したふ5 そふ(添・諷)4(1) たかふ(違)6 た
 とふ(例)6 たふとく(尊)2 給ふ10(1) ちかふ(誓)1
 つかふる(仕)2 つたふる(伝)1 てふ(蝶)1 ・・・てふ(云)
 (1) と、のふる(調)1 なすらふる2 ぬふ(縫)1 ねか
 ふ2 ものゝふ4(1) 行かふ(交)1 中ふ(結)1(1)
 あたへ(与)1 いにしへ7(3) いへ(三云)68(1) うへ
 上)5(1) うれへ(愁)1 をしへ(教)7 おとろへ1

をみなし2(1) 思へ14(1) かよへうた(教・歌)7(1)
 (1) かなへる(叶)3(1) かへ(代・変)2(1) かへり(返・
 帰)8(1) かまへたる(構)1 さへ(支)2 ・・・さへ5
 さへ(障)2 ぞへうた(諷歌)6(2) たかへる(違)2 た
 とへ(例)3(2) たへ(妙)1(1) たへ(堪)2 給へ19
 つかへ(仕)2 つたへ(伝)1 なすらへ(6)2(1) へ
 響費)1 はたへ(膚)2 ハへ(延)4(1) ひとへ(偏)1
 へつらへる1 やかき(八重垣)8(3) よそへ(装)5
 (1) よみがへり1 わきまへ1
 おほき(大)1 おほ1(多)6(1) おほきみ3(1) おほな
 ほひ(大直毘)3(1) おほひ(覆)1(1) おほよそ1(1)
 おほん1(御)3(3) しほ(塩)1(1) すなほ3 ぞとほり
 ひめ2(1) と、のほり(調)3(1) にほひ2 よこほり1
 横)1 いきとをり1 とをき(遠)1 なを(蕪)1(1) な
 をざり1 まちとを(待遠)1

b. 中冊

あハ(会・合)12(2) あは雪1 あはれ18(2) あらは
 1(現)10 いたハる1 いつはり1 いは(云)26(1)
 いはかき(石垣)2(1) いはね(石根)1(1) いはふ(祝)
 (5) いまハし(思)1 うつろはん1 うるハしき1 おこ
 なハれ1 をとハ(音羽)1 おハしまし2 おハ(負)1
 1(を)はり(終)1(1) 思ハ19(2) 香くハしき1 かなハ
 1(叶)2 かはす(交)4(1) かはつ(蛙)1 かハラ(川原

(1) かはる(代・変)27(4) かよハぬ(通)1(1) き
 は(際)1 きはまりー くハシ(細)3 くハる2(1) け
 ハハ1 ことハリ(理)5 さぞハる、ー したハれ(慕)1
 (1) すなハち3 たつきハらん1 たはれ(戯)2 給ハ
 1 3 ときハ5(2) とハ(訪・問)5(2) とふらん(
 訪)1 なには(難波)1(1) ならハ(習)2 にほハ(句
 句)6(1) のハラ(野原)1(1) 萩ハラ(原)1 ハ、ヤ(
 祚)3(2) まとハされー やすらハ(安)ー ヤハラか2
 ヤハラく2 よはく(弱)2 よはひ(寿)5(1) わつらハ
 1 あちわひー かなわす(叶)1 ことわり(理)ー とき
 わ(1) よミならわしたりー

あちわひー あひ(相)4 あひ(合)7(2) … あひ(合
)4 あひた(間)1 いはひ(祝)2 いひ(云)17 うくひ
 す(驚)3(1) うたかひー うつろひ7 おひ(生)1 思
 ひ28(1) かひ(効)2 きらひ(嫌)5 けハひー こひ(恋
)1 こよひ(今宵)4(2) さやひー さふらひ(1) した
 ひ(慕)2 そひ(添)2 たくひ(類)16 ちりかひ(散交)1
 (1) … つかひ(遣)4 ならひ(習)8 にほひ8 ねかひー
 まとひ(惑)2 むかひ2 やよひー 行かひ(交)2 よはひ
 (寿)5(1) よひ(宵)3(1) しるて(強)3(2) つるに(終)
 2 ちいさき2 めい(姪)1
 あたふ(手)ー あつかふー あふ(会・合)9(3) あぶく(仰)
 1 あふ坂(逢)1 あふミ(近江)1(1) いとふ(厭)

1 いはふ(祝)3 いふ(云)96(1) うしなふ2 うつろふ
 16 うるふ(潤)1 をしふる(教)1 哀ふる2 おふる(生
)1(1) 思ふ86(1) かやふる(数)1 かなふ(叶)2(1) か
 よふ7(1) きよふ(清生#人名)1(1) 嫌ふ4 けふ(今日
)17(7) こふ(恋)6(2) さやふー したかふ1 したふ9
 たかふ(違)1 たくふる(類)1 たとふ(例)2 給ふ8 ち
 かふ(違)1 つたふ(伝)1 … てふ(云)4(3) とふ(訪)3
 にほふ5(2) ぬふ(縫)4(1) のろふ1 はからふ1 はふ(延
)1 まかふ(紛)5 まとふ(惑)2 まよふ(迷)1 むかふ
 (向)1 やしなふ2 やすらふ3 行かふ(交)2(1) ゆふ(夕
)2(1) よそふ(装)1 よはふ(呼)1
 あつら(説)1(1) あ(会・合)2(1) あ(敢)7(2) ぞ
 いにし(2) い(家)1 い(云)93(1) うたかへるー
 うつろへる2 う(上)9(3) うれ(愁)2 をし(教)
 1 おとろへ2 をミなへし3(1) 思(35)1 かた(片方
)1 かな(り)叶10 か(代)1 か(す)11 かへる(返・
 帰)15(4) かへる山3(2) かよ(り)通1 きらへる1
 加へ1 こた(1)3 さな(早苗)1(1) … さへ16 したか
 (従)1 した(慕)2 やな(備)2 や(添
)3 たと(例)6 た(妙)1 た(堪)2 給(16
)つか(任)2 つた(伝)1(1) と(訪)2 なからへ
 1 5 にほ(7)3 は(延)6 ひと(偏)1 まか(紛)1
 1 まと(惑)2(1) むか(迎)1 よそ(1)

装(16) 行(方)3 さえつる(囀)1(1)

岩ほ2 いほ(庵)1 おほいまうちきみ2(1) おほし(多)
件(1) おほせ(仰)1(1) おほせ(負)2(1) おもほえ(思

(2)1) かほ(顔)1 こほり(水)2 さほ(地名)3(3) し
ほの山(地名)1(1) しほかま(地名)1 しほわ(茶)2

にほひ5 にほふ6(2) 1しほ(入)1 もよほす4 とをき(遠
(2)1) なを(猶)1 なをし(直)2 ことなお(言直)人名(1

(1)とおる(通)1
C. 下冊

あちハふ1 あハ(会・合)36(5) あは雪1(1) あハれ1(

29(4) あらハ(現)25 いさなハれ1 1つハリ6(3) いと
ハ(厭)3(2) いとハし1 いは(云)6(5) いは浪(石)

1(1) いハふ(祝)1(1) うつろハ(移)2 うるハしき1
うれハし(喜)4 をとは(音羽)3(3) おハらさる1 思ハ

1 22(5) かなは(叶)3 かハし(交)8 かハる(代・度)40
かよハ(通)3(1) くハし6 くハる1 くハ(加)4

(1) けハしき1ことハリ(理)5 さは(沢)2(1) さハ
る(障)3 すなハち4 ぞハぬ(添)1 ぞはれる(添)1(1)

(1) たかハ(遠)2 たくハへ2 たハふれ2 たはる(戯)
1(1) たはれを(戯男)1 たまハ(給)3 つかハす3 と

きは3(1) とは(訪・問)8(1) なには(難渡)9(6)
なは(繩)1 ならハ(習)2 ならハし2(1) にはかに
2 にはハせ(句)1 ぬは(縫)4(1) ぬめなは(根草葉

(1) は(母)1(1) ハらハ(払)1 1きは(際)1 まつ
はる1 1みたりかハし1 もハラ(尊)2(1) よは(夜半)2
よハ(人)呼(1)1) よハる(弱)2 わらハ(童)1 あわぬ(

会)1 よわ(夜半)1
あひ(相)23(8) あひ(会・合)15(2) 1) あひ(合)3(1)

あらかひ(杭)1 いさよひ1 いとひ(厭)8(1) いひ(云)54
(2) うくひす(鷲)1(1) うたかひ3 うつろひ3 おひ(生

(4)3) おもひ(思)33(4) かたらひ3 かひ(甲斐)1(1)
かひ(峽)3 かひ(効)18 1) かひ(飼)2 かひよ(鹿鳴)2

かよひ(通)3(2) きらひ(嫌)2 こひ(恋)3(2) こひ(請
1) こひし(恋)3 こよひ(今宵)2(2) さかひ(境)3(1)

さふらひ1 したかひ3 したひ(暮)2 しらぬひ1 ぞこひ(

底)1(1) たかひ(遠)1 たくひ(類)9 たよひ1 ちかひ
(遠)2 1) つかひ(道)1 とひたる(訪)1 とふらひ(訪)4

なつさひ(馴)1 ならひ(習)9 にほひ1 ねかひ2 ひろひ(拾
1) 1) まとひ(惑)1 まひ(幣)2(1) まひなひ1 むかひて

(向)1 もとゆひ1 やまひ2 やよひ2(2) 行かひ(交)3(1)
ゆひ(結)1 よひ(宵)6(3) わらひ(笑)2 1) して(強)3

(1) すまゐ(住居) たましる3(1) つゐに(終)12(1) よゐ
(宵)1(1) こい(請)1 しほかい(潮貝)1(1) ちいさき1

ひたい(額)1
あさちふ(浅茅生)1(1) あちハふ1 あふ(会・合)28(11)
あふく(仰)4 あふさか(逢坂)3(2) あふみ(近江)1

いとふ(厭)5(1) いふ(祝)1(1) いふ(云)12(2) うしな
 ぶ1(うたかぶ)5 うつろふ12(2) おこなふ1(をしふ(教)1
 をふ(麻生)2(1) おふる(生)7(3) おほふ(覆)1(思ふ)127
 (15) かけろふ2(1) かよふ(教)2(1) かたらふ2(かふる(代)3(1) かまふる(構)1(かよふ)10(きらふ)1(けふ(今日)9(てふ(胡蝶)1(こふ(恋)16(8) したかふ1(したふ)5
 やふる(添)2(たかふ(違)1(たとふ(例)6(給ふ)8(たゆ
 たふ2(ちかふ(違)1(てふ(云)11(8) とのふる1(と
 ぶ(訪問)13(2) とふらふ(訪)1(なすらふ)2(なづさふ(馴)1(はふ(延)1(1) はらふ(私)1(ひらふ(拾)1(1) ましなふ1(ましふ(交)1(まとふ(惑)1(まよふ)4(1) むかふ(向)2(やすらふ)1(行かふ(交)1(ゆふ(夕)9(3) ゆふ(木綿)1(ゆふ(結)2(ゆるふ(播)1(よよふる(装)1(わつらふ)4(いもうと)1(をと)1(1) あ(会)4(あ(敢)5(2) あへなき1(いと(厭)2(いにし(2(2) い(云)75(3) うつろへる1(う(上)24(7) うれ(悠)1(をし(教)4(おとろへ)9(思へ)47(8) かよ(教)2(かな(叶)7(か(代)変)6(かへす)18(2) かへる(返)帰)31(5) かへる山1(かま(す(構)1(かよ(通)2(1) きら(へり(嫌)1(く(加)4(1) こた(答)6(さ(へらる(障)1(さ(25(2) した(へ)1(よ(な(へる)1(よ(添)11(1) たか(違)2(たく(ハ)2(たと(例)43(た(妙)1(た(堪)2(給(へ)3(つ

上	冊	
117	ハ	117(9)
7	0	
[wa]の表記		
97	キ	ヒ
1	4	88(14)
3	6	
[i]の表記		
206	ウ	7
	0	206(13)
[u]の表記		
200	エ	ハ
	0	200(22)
	0	
[je]の表記		
37	オ	ホ
	0	32(11)
		5(1)
[wo]の表記		

以上を整理して示せば次のようになる。

か(仕)4(つた(伝)2(て(云)2(との(外重)1(と(問)3(1) なから(へ)7(なすら(へ)1(は(延)3(1) ひと(へ)1(重)1(1) まし(へ)交)2(まよ(り)ま(前)3(や(八重)よ(へ)1(装)70(行)8(1) いほ(庵)1(1) おほ(あ)ら)き)5(1) おほ(い)ま)う)ち)き)3(3) おほ(か)た)1(1) おほ(き)3(大)3(3) おほ(多)10(おほ(仰)2(1) おほ(や)ら)1(1) おほ(め)さ)2(1) おほ(ふ)覆)1(おほ(れ)ん)濁)1(おほ(み)3(御)1(1) おも(ほ)え)す)2(1) をし(ほ)の)山)2(1) かほ(顔)2(こほ)れる)氷)1(1) しほ(塩)2(2) しほ(あ)ひ)汐)合)3(3) しほ(か)ひ)汐)貝)2(2) よほ(案)山)子)2(1) と、こほ)る)1(ほと)り)鳩)鳥)1(1) にほ(ひ)1(み)さ)ほ)操)2(む)す)ほ)れ)結)4(もし)ほ)藻)塩)1(も)よ)ほ)す)2(と)を)き)遠)3(と)を)さ)か)り)3(と)を)し)通)1(し)と)を)り)た)る)1(な)を)捨)1(く)す)な)を)葛)直)人)名)1(ぞう)つ(案)山)子)4

<table border="0"> <tr><td colspan="3">本来工</td></tr> <tr><td>工</td><td>エ</td><td>へ</td></tr> <tr><td>286</td><td>0</td><td>6</td></tr> <tr><td>(31)</td><td></td><td>(1)</td></tr> </table>			本来工			工	エ	へ	286	0	6	(31)		(1)	<table border="0"> <tr><td colspan="3">本来エ</td></tr> <tr><td>工</td><td>エ</td><td>へ</td></tr> <tr><td>2</td><td>75</td><td>115</td></tr> <tr><td></td><td>(9)</td><td>(14)</td></tr> </table>			本来エ			工	エ	へ	2	75	115		(9)	(14)	<table border="0"> <tr><td colspan="3">本来ワ*</td></tr> <tr><td>ワ</td><td>ハ</td><td></td></tr> <tr><td>46</td><td>18</td><td></td></tr> <tr><td>(4)</td><td>(4)</td><td></td></tr> </table>			本来ワ*			ワ	ハ		46	18		(4)	(4)				
本来工																																															
工	エ	へ																																													
286	0	6																																													
(31)		(1)																																													
本来エ																																															
工	エ	へ																																													
2	75	115																																													
	(9)	(14)																																													
本来ワ*																																															
ワ	ハ																																														
46	18																																														
(4)	(4)																																														
<table border="0"> <tr><td colspan="3">本来イ</td></tr> <tr><td>イ</td><td>ヰ</td><td>ヒ</td></tr> <tr><td>15</td><td>2</td><td>5</td></tr> <tr><td>(4)</td><td></td><td>(1)</td></tr> </table>			本来イ			イ	ヰ	ヒ	15	2	5	(4)		(1)	<table border="0"> <tr><td colspan="3">本来ヰ</td></tr> <tr><td>イ</td><td>ヰ</td><td>ヒ</td></tr> <tr><td>5</td><td>19</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>(8)</td><td>(1)</td></tr> </table>			本来ヰ			イ	ヰ	ヒ	5	19	2		(8)	(1)	<table border="0"> <tr><td colspan="3">[wa]の表記</td></tr> <tr><td colspan="3">[i]の表記</td></tr> <tr><td colspan="3">[u]の表記</td></tr> <tr><td colspan="3">[je]の表記</td></tr> <tr><td colspan="3">[wo]の表記</td></tr> </table>			[wa]の表記			[i]の表記			[u]の表記			[je]の表記			[wo]の表記		
本来イ																																															
イ	ヰ	ヒ																																													
15	2	5																																													
(4)		(1)																																													
本来ヰ																																															
イ	ヰ	ヒ																																													
5	19	2																																													
	(8)	(1)																																													
[wa]の表記																																															
[i]の表記																																															
[u]の表記																																															
[je]の表記																																															
[wo]の表記																																															
<table border="0"> <tr><td colspan="3">本来ウ</td></tr> <tr><td>ウ</td><td>フ</td><td></td></tr> <tr><td>186</td><td>7</td><td></td></tr> <tr><td>(16)</td><td></td><td></td></tr> </table>			本来ウ			ウ	フ		186	7		(16)			<table border="0"> <tr><td colspan="3">本来ヱ</td></tr> <tr><td>エ</td><td>ヱ</td><td>へ</td></tr> <tr><td>2</td><td>75</td><td>115</td></tr> <tr><td></td><td>(9)</td><td>(14)</td></tr> </table>			本来ヱ			エ	ヱ	へ	2	75	115		(9)	(14)	<table border="0"> <tr><td colspan="3">本来ヲ</td></tr> <tr><td>オ</td><td>ヲ</td><td>ホ</td></tr> <tr><td>5</td><td>3</td><td>1</td></tr> <tr><td>(1)</td><td>(1)</td><td></td></tr> </table>			本来ヲ			オ	ヲ	ホ	5	3	1	(1)	(1)				
本来ウ																																															
ウ	フ																																														
186	7																																														
(16)																																															
本来ヱ																																															
エ	ヱ	へ																																													
2	75	115																																													
	(9)	(14)																																													
本来ヲ																																															
オ	ヲ	ホ																																													
5	3	1																																													
(1)	(1)																																														

いなみに、ハ行転呼音以外の語中の [wa] [i] [u] [je] [wo] の表記については、

計	下冊		中冊	
657	344		196	
ワ	ハ	ワ	ハ	
7	650	5	191	
(1)	(89)	(1)	(31)	
545	287		161	
イ	ヰ	ヒ	イ	ヰ
11	33	501	3	5
(1)	(5)	(63)	(1)	153
897	462		229	
ウ	フ	ウ	フ	
2	895	0	7	
	(105)		229	
982	475		307	
エ	ヱ	へ	エ	ヱ
1	11	970	1	3
(1)	(1)	(89)	(1)	303
168	72		59	
オ	ヲ	ホ	オ	ヲ
4	2	142	2	5
	(1)	(45)	(1)	52
				(11)

(※ここに「本来…」として示したのは、いわゆる歴史的仮名遣いにおいて、各々当該の仮名により表記されることが期待されるものである。念のため付記する。以下同様。)

の如き調査結果が得られ、それら二つの調査結果を比較検討することにより、

①ハ行転呼音の表記は、〔wo〕についてやや混乱が目につくものの、全般に本来の表記法を良く保存していること云々

つてよさそうであり、

②それに対して、それ以外の〔wa〕〔i〕〔u〕〔je〕の表記はかなり混乱した様相を呈し、ワ行はア・ヤ行の混同のほか、フ行・ア行・ヤ行↓ハ行の混同が目につく。

といった指摘ができてきそうである。

つまりは、「ハ行の仮名によって大方を処理しようとする傾向が見受けられる」のであり、傍訓注記の場合と同様、「仮名遣いの誤りをいさぎよしとしない書写者の意識が、大方の表記を音韻の同化方向とは逆の向きに向かわせた」と見るこ

とができるように思う(「文献探究」も拙稿、参照)。

なお、一見したところ、混乱の様相が傍訓注記の場合よりも上記・本文表記の場合において著しいと見える(多岐に亘る)のは、例数の多寡によるほか、前者の例が後者のそれよりも一層強く右の傾向に規定されている事情を示すものと思われる(そうした傾向の差が見られることについては、さらに、傍

訓注記・伝受本文各々に対する書写者の態度その他に原因が求められよう。

(5) 語頭の [i] [je] [wo] の表記については、次のような調査結果が得られた。

		下冊				中冊				上冊					
本来イ		本来イ		本来イ		本来イ		本来イ		本来イ		本来イ		[i] の表記	
イ	1	イ	0	イ	0	イ	1	イ	1	イ	0	イ	0	イ 甚多	
1	(1)	12	(1)	0	(1)	0	(1)	6	(1)	1	(1)	0	(1)	甚多	
本来エ		本来エ		本来エ		本来エ		本来エ		本来エ		本来エ		[je] の表記	
エ	0	エ	1	エ	0	エ	0	エ	0	エ	0	エ	0	エ 11 (1)	
0	(4)	29	(6)	1	(2)	0	(2)	0	(1)	0	(1)	0	(1)	15 (1)	
本来オ		本来オ		本来オ		本来オ		本来オ		本来オ		本来オ		[wo] の表記	
オ	368	オ	106	オ	189	オ	62	オ	80	オ	10	オ	57	オ 57 (10)	
164	(24)	46	(13)	106	(21)	189	(5)	21	(11)	62	(7)	80	(14)	122	(16)
		49	(5)	189	(39)	21	(11)	62	(7)	80	(14)	122	(16)	25	(11)
		106	(21)	189	(39)	21	(11)	62	(7)	80	(14)	122	(16)	10	(3)
		46	(13)	106	(21)	189	(5)	21	(11)	62	(7)	80	(14)	35	(5)
		106	(21)	189	(39)	21	(11)	62	(7)	80	(14)	122	(16)	57	(10)

計		本来イ		本来エ		本来オ	
イ	1	イ	1	エ	1	オ	178
19	(2)	19	(2)	29	(6)	92	(35)

[i] [je] についてはほぼ期待される通りの書き分けが見られるが、[wo] についてはそれが認められない、ということになる。しかし、一見混乱していると思われる [wo] については、次のように整理することによって、問題はほとんど解消される。

a. 上冊

おき(沖) (5) (1) おき^x(熾) (1) おき (1) おころ(起) (8) おこた
らぬ(怠) (1) おたやか (1) おつ(落) (3) (1) おとろへ (2) おなし (4)
おのつから (1) おハしまし (1) おほき(大) (1) おほきミヨ (1) お
ほし(多) (7) (1) おほつかなし (3) おほひ(覆) (1) (1) おほよ
ぎ (1) (1) おほん (1) (御) (3) (3) おほゆる(寛) (1) おふる(生)
1 (1) おもしろき (4) おもて(表) (3) おもふ (1) おや(親) (2) (1)
あひをひ(相生) (1) をまひ(熾火) (1) (1) をく(置) (1) (1) をく
2 (1) をこり(驕) (1) (1) をそり(恐) (1) (1) をたやか (1) をと(音)
1 (1) をと織女 (1) をとは(音羽) (1) をとらざる(劣) (1) を
のつから (1) をひ(追) (1) くわのをも(呉の母 茴香) (1) をも
き(重) (1) をもむき(趣) (1) をよそ (1) をよひ(及) (1) をろか
2 をろろやか (2)
すさのお(素戔嗚) (1) おくろさき(小黑崎) (1) (1) おさめ

(治) 1 おとこ 1 おとこ山 2 おり折 2 おりふし 2
すきのを 4 をか(画) 2 をかたまの木 1 をかみ(男神
1) をくら山 1 をしへ(教) 7 をとめ 1 をのこまち
1) をハリ(終) 1 をみなし 2 をり(居) 2 をん
な 1) しをに(紫苑) 1

b. 中冊

おき(起) 3 おく(置) 3 おこなハれ(行) 1 おこり(起)
6 おちつく 1 おつ(落) 9 おつる(怖) 1 おとと(大臣)
1 おとろく 6 おとろへ 1 おなし 6 おはしまし 2 おハ
負(1) おふ(生) 2 おほいまうちまみ 2 おほえ(覺)
4 おほし(多) 15 おほしめす 3 おほす(思) 1 おほせ(仰)
1 おほせ(負) 3 おほつかなし 1 おまし 2
おもしろし 3 おもて 2 おもふ 2 おもほゆ 2 おも
むく 3 おや 2 おりる(降居) 1
をうな(嫗) 1 をく(置) 24 をくる(送) 2 をくる(運) 8
をす(押) 7 をよき(運) 1 をと(水) 2 をとる(省) 1
をとろへ 1 をとハ(音羽) 3 をのこ 2 をのつ 4
6 をもく(重) 1 をもしろし 1 をよそ 2 をよふ(及)
かめのおの山 1 おさむ(治) 2 おしおしむ(惜) 2
おとこ 1 おみなへし 1 おる(折) 5 おる(織) 3
おん 1
よろつを(万雄) 1 人知 1 をくら(小倉) 2 をしふ(教) 2
をちこち 1 をの(小野) 2 をのこ 1 をハ

姨 4 をハリ(終) 1 をみなし 3 をる(折) 1 をる(居) 3
をんな 1

c. 下冊

おいた(老) 1 おいて(於) 1 おうな(嫗) 1 おき(沖
1) おき(起) 7 おまつ(興津) 2 おくム
1) おく(置) 2 おくる(運) 1 おこき(御國忌)
1) おこたり(念) 1 おこなみ 1 おこる(起) 7 およろしき
おちつく 1 おちふる 1 おつ(落) 8 おと(音) 1 おとな
し 2 おとろく 6 おとろへ(哀) 9 おなし 11 おふ(生)
12) おほあらし 6 おほいまうちまみ 2 おほかた
1) おほき(大) 2 おほきおほいまうちまみ 1 お
ほし(多) 10 おほしめす 2 おほす(思) 1 おほせ(仰) 2
おほせ(負) 3 おほつかなし 2 おほめ 2 おほふ(覆) 1
おほれん(惣) 1 おほし(御) 1 おほめく 1 おほや
覚 12 おま(御前) 1 おも(面) 1 おもしろし 5
もて 3 おもふ 32 おもほゆ 2 おや 3 おりる(降居)
1) おろす 2 おん 1
をく(置) 33 をく(晚稲) 2 をくる(送) 1 をくる(運) 4
をす(遣) 1 をこたり 4 をし(押) 3 をよし(つ
4) をとら(音羽) 3 をとめ 2 をとる(省) 1
をとろへ 1 をふ(生) 2 をもしろし 1 をもて 1 をもに(重
荷) 1 をよそ 2 をよひ(及) 6 をる(織) 2 あしを
れ(足折) 1 をろか 6 をろそか 1 をの(己) 1 をのつ

から6をのれ1

おかしきーおさ(歳)ーおさおさし(長々)4(1)おさまる

(納)ーおさむ(修)3おし(借)11(1)おとこ4お花(尾

1)ーおはら(終)ーおる(折)21(2)

をむね(雄宗)人名(2)2)たはれを(戯男)ー玉のを8(2)

浪のを(籍)2麻のを(苧)1をか(岡)21)むねをか(

宗岳)人名)ーをかす(侵)ー田をさ(長)2をしとり(鴛

鴛)1)をしふ(救)6をしほの山(小塩)あらを田(荒小

1)をたまき(苧環)21)をちかた(遠方)1)1)なの(

小野)5(4)をハ(姨)1をはすて山1をふ(苧並)2(1)

をり(居)3をる(折)3(1)

※表中、○を付したものは、行阿可仮名文字遣の用例と合致するもの。×を付したものは、合致しないものである。○×とも、()を付す場合は、類語の例から合否を判断したことを示す。なお、可仮名文字遣の本文は、ひとまず国語学大系所収のそれを採った。

また、いわゆる歴史的仮名遣いを基準とする観点からは、かなり混乱した状態にあると判断された前項の表記例についても、右と同様の観点から把え直してみることにより、「混乱」と見なすべき範囲をかなり縮小することができようである。

したがって、この可延五秘抄の本文がいわゆる定家仮名遣いの影響を色濃く受けて書かれたものであること、疑い得ないが、一方、傍訓注記の表記についてもこれとほぼ同様の傾向が認められ、興味深い(その具体例については、「文献探究」の拙稿参照のこと)。

(6) 四つ仮名の表記について

四つ仮名の表記については、次のような調査結果が得られた。

冊上 本来ジ 4 0	冊中 本来ジ 4 0	冊下 本来ジ 4 0	冊上 本来チ 4 13(5)	冊中 本来チ 4 24(4)	冊下 本来チ 4 25(14)	冊上 本来ズ 4 0	冊中 本来ズ 4 0	冊下 本来ズ 4 0	冊上 本来ヅ 4 13(5)	冊中 本来ヅ 4 24(4)	冊下 本来ヅ 4 25(14)
ジ 26(6)	ジ 7	ジ 31(2)	ジ 0	ジ 0	ジ 0	ズ 8(2)	ズ 5	ズ 9(2)	ズ 0	ズ 0	ズ 0
ズ 0	ズ 5	ズ 9(2)	ヅ 0	ヅ 0	ヅ 0	ズ 1	ズ 1	ズ 0	ズ 66(11)	ズ 114(12)	ズ 140(21)
ジ 0	ジ 0	ジ 0	ジ 0	ジ 0	ジ 0	ズ 1	ズ 1	ズ 0	ズ 0	ズ 0	ズ 0
ジ 64(8)	ジ 0	ジ 68(23)	ジ 0	ジ 0	ジ 0	ズ 22(4)	ズ 1	ズ 320(44)	ズ 0	ズ 0	ズ 0

全475例中、わずかに1例の混同例(「よろす(互)」を除いて、すべて正確に書き分けられているわけであり、見事と云わざるを得ない。

ちなみに、傍訓注記の場合には、

。漢語の表記

本来ジ
ジ 5 157

本来チ
チ ジ 36 21

本来ズ
ヅ ズ 0 4

本来ヅ
ヅ ズ 4 0

。和語の表記

本来ジ
ジ 3 23

本来チ
チ ジ 11 0

本来ズ
ヅ ズ 0 6

本来ヅ
ヅ ズ 26 0

計
本来ジ
ジ 8 180

本来チ
チ ジ 47 21

本来ズ
ヅ ズ 0 10

本来ヅ
ヅ ズ 30 0

といった状態であった(全296例中、混同例29)。

ここに見るかぎり、いわゆる四つ仮名の混乱は、伝受本文よりも傍訓注記において(しかも、特に、漢語の「ジ」「チ」の区別に関わる場合において)顕著にその姿を現わしたものであるが、或るいは、それがそのまま音韻混同の進み具合を示すものでもあろうか。なお、他の資料を参照しつつ考察してみることが有る。

(7) その他

その他、声点のこと・清濁注記のこと・両者の関わりのこと等、触れるべき問題は少なくないが、今回は紙幅

の關係上すべて省略するものとし、以下、(1) (6)を通じてのまとめを行なっておきたいと思う。

既に明らかになった如く、この『延五秘抄』一本の本文は、随所に近世的な表記混乱の様相を仄見せながら、全体として、かなり正確に中世的な表記体系Ⅱ段階音の開合・拗長音とハ連母音・四つ仮名等々を区別し分けるⅡを保っており、その正確さは傍訓注記のそれよりもかなり上にあると云って良いようである(正確さ追求の姿勢は、また、定家仮名遣いの遵守といった点にも端的に現われている)。

その正確さの由って来るところ、および、本文表記と傍訓表記との間にどうした差の見られることについては、なお、関連の古今集注釈書類にも当って検討してみなければならぬが、現在のところは、ひとまず、「同本を書写した中世末と近世初期頃の人物が、伝受本文を尊重する」とともに、多くの傍訓を新たに書き加えたため」と解釈しておきたいと思ふ。諸賢の御批正を賜われれば幸いである。

【付記】 本稿連載中、秋永一枝氏・遠藤邦基氏・奥村恒哉氏等多くの方々から御教示を賜わった。記して感謝申し上げる次第である。また、一部に複製刊行を促す御意見も有ったが、現在のところ可能な線で検討中である。御諒承頂きたい。